

搜索救助犬協会に助成

「光と愛の事業団」災害備え 久喜で訓練

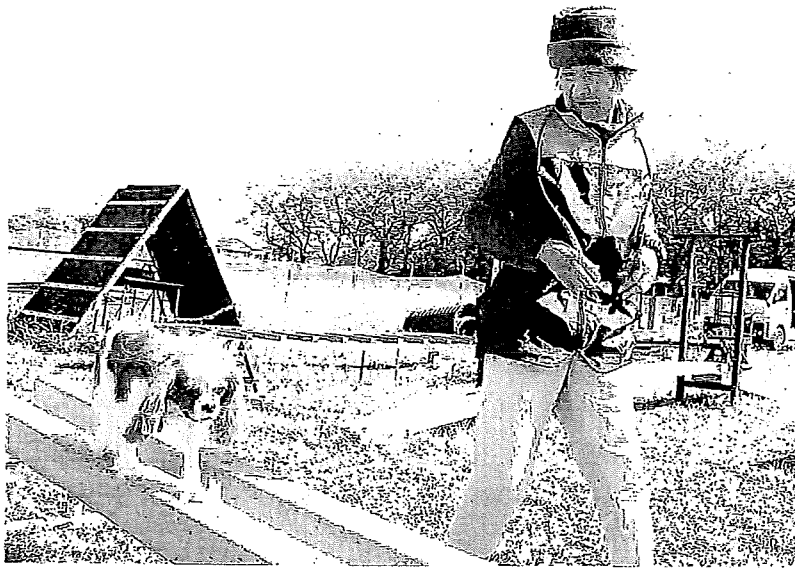
読売光と愛の事業団は、久喜市のNPO法人日本搜索救助犬協会を災害ボランティア登録団体に選んだ。登録団体には自然災害発生時の初動費用として、年50万円（上限）が提供される。

同協会は2004年の設

立で、土砂やがれきに埋まった被災者を見つける搜索救助犬の育成や、被災地への出動を続けている。現在の会員は約20人で、15頭ほ

どが所属する。

これまで、04年10月の新潟中越地震や11年3月の東日本大震災、昨年7月に静岡県熱海市で発生した土石流など、多くの大規模



搜索救助犬を訓練する江口代表理事（20日、久喜市で）

災害の現場で活動してきた。東日本大震災では発生翌日に宮城県気仙沼市に入り、11人の遺体を見つけた。

同協会は週末に、久喜市菑浦町の訓練場で、物陰や箱の中に隠れた人間を見つ

けるなどの訓練を行っている。犬種は大型犬から小型犬までさまざまで、同協会の江口タミ子代表理事（76）は「それぞれの犬に長所や役割がある」と話す。

助成金は、出動時の交通費や無線機、全球測位システム（GPS）などの設備費用に使う予定という。江口代表理事は「一分一秒でも早く現場に出動して、被災者の発見に結びつくように使わせてもらおう」と力強く語った。

災害支援団体を助成



静岡市葵区の土砂災害現場で重機を使って復旧作業に当たる日本笑顔プロジェクトのメンバー（14日撮影、林代表理事提供）

光と愛 災害ボランティア 小布施「活用 被災地の力に」

自然災害の被災地復旧支援に取り組む一般財団法人「日本笑顔プロジェクト」（小布施町）が、読売光と愛の事業団の「災害ボランティア登録制度」の助成団体に選ばれた。各地で災害が多発する中、団体は「大きな後押しをいただいた」と喜んでいる。

同制度は、災害救援活動で経験や実績、専門技術を持つ団体を登録し、被災地入りの際、初動の資金として年間50万円を上限に提供するもの。登録期間は3年間で、今年度は継続も含め全国で5団体が選ば

れた。

日本笑顔プロジェクトは2011年の東日本大震災後に任意団体として発足し、炊きだしなどを実施。16年熊本地震や18年西日本豪雨でも支援物資を送った。19年の台風19号では小型重機を使った泥などの搬出を担った。現在は法人化し、被災地で活動する「重機オペレーター」の育成も行っている。

今年も豪雨災害に見舞われた新潟県村上市や静岡市などで活動。林映寿代表理事（46）は「重機のリースや燃料費には数百万円の資金が必要だ。助成を活用し、いち早く駆けつけて被災地の力になりたい」と話している。

必要な支援 被災地へ

宇陀のNPO登録団体に

光と愛 災害ボランティア

地震や豪雨の被災地で、緊急支援に取り組んできたNPO法人「災害救援レスキューアシスト」（宇陀市）が、支援の初動費用の助成が受けられる読売光と愛の事業団の「災害ボランティア登録団体」に選ばれた。代表理事の中島武志さん（45）は「自分たちがやりたい支援ではなく、それぞれの被災地で必要な支援をしていきたい」と話す。（山田珠琳）

中島さんは2011年の東日本大震災をきっかけにボランティア活動を始め、16年に任意団体として前身の団体を設立。災害直後の



①「それぞれの被災地に必要な支援を届けたい」と話す中島さん（奈良市）
②豪雨被災地で重機を使って土砂を撤去するスタッフら（10月8日、静岡県磐田市）
③災害救援レスキューアシスト提供

育成にも力を入れるなど活動の幅を広げている。

被災地には通常、先遣隊としてスタッフ3人が入り、その後、ボランティアの受け入れを行う。現地の自治体や社会福祉協議会、住民と協力して、被災者の支援ニーズを集め、直面する課題や状況に合わせた支援に取り組みのが特徴だ。

16年の熊本地震では避難所の運営や炊き出し、18年の大阪北部地震や今年の福島沖地震では、被災家で屋根の雨漏りを防ぐブルーシートを張る作業などを実施。19年の九州豪雨や、今年8月に豪雨被害を受けた新潟県関川村では、家屋の壁から断熱材を取り除いたり、床下や周囲の泥を排出したりする作業に注力した。各地の活動を通じて仲間が増え、現在は20〜80歳代の約80人が支援を担う会員として登録して

いる。

登録団体に選ばれた後の今年10月には、台風15号の影響を受けた静岡県磐田市の支援で、事業団の助成金を利用して小型のパワーショベルをレンタル。初期の10日間、被災家屋の床下や周辺の土砂の撤去作業に活用した。これらは重機の操縦など専門的な技術が必要な支援で、現場で扱える人は限られているという。

中島さんは「人手の足りない被災地では、重機を使えるだけで100人分の支援になる。被災地の状況は日々変化し、迅速な支援が求められるため、今後も力を尽くしていきたい」と思いを新たにしていた。

読売光と愛の事業団の「災害ボランティア登録制度」の登録団体になった災害救援レスキューアシストには、被災地での初動費用が年50万円を上限に支給される。登録期間は3年間。今回は19年からの継続を含めて5団体が選ばれた。